

平成29年7月31日

釜石市議会議長 佐々木義昭 様

釜石市議会 海盛会
代表 合田 良雄



会派視察調査報告書

当会派所属議員（合田良雄、赤崎光男、海老原正人、古川愛明）による視察調査を、平成29年5月24日～26日、長崎市ならびに鹿屋市で下記の通り実施しましたので、報告致します。

- 1、視察項目： ①世界遺産維持管理について
②観光のあり方について ③端島炭鉱現地視察研修
- 日時： 平成29年5月24日（水） 午前9時～10時
- 参加者： 合田良雄 赤崎光男 海老原正人 古川愛明
- 相手方： 長崎市議会事務局総務課長 松尾直
長崎市企画財政部 世界遺産推進室係長 首藤充
- 場所： 長崎市議会会議室

研修内容：

〔視察先に選んだ理由〕

橋野鉄鉱山と共に、明治日本の産業革命遺産に選ばれた長崎の「端島炭鉱」の整備状況について知るため。

① 世界遺産維持管理について

軍艦島観光の利用者数は、平成21年の供養開始時に5万5千人、平成24年に10万人、平成25年に16万人、平成26年に19万人、平成27年（世界遺産登録）に28万6千人、平成28年に26万5千人となっている。

軍艦島整備事業は平成19年、20年度事業費として1億400万円であり、見学者の安全な上陸を確保するために現存のドルフィン栈橋の改修や端島への連絡橋の架設を行っている。



端島炭坑の整備に要する費用は、平成30年度から30年間で108億2千万円と試算されている。

この財源を確保するため、国や県への支援要請や端島（軍艦島）整備募金の積み立てを行っている。この整備募金は平成27年に設立され、平成37年までに6億円の積み立て目標としている。

② 観光のあり方について

特に長崎市が力を入れているのが夜景観光の推進であり、香港、モナコと並び新世界三大夜景に認定されている。

夜景に係わる整備事業として、稲佐山山頂展望台の改修（事業費9400万円）、ロープウェイの改修（事業費5850万円）、「光のトンネル」の整備（事業費4630万円）、他に観光ライトアップ（出島、中町教会、眼鏡橋、大浦天主堂）、夜間開催イベント（長崎ランタンフェスティバルの開催）、ソフト面の整備（夜景ナビゲーター育成、夜景専門のHP、ポスター、パンフレット製作）などを行っていた。

③ 端島炭鉱現場視察研修

長崎半島から西に約4.5km、三菱石炭鉱業（株）の主力炭鉱があった高島から南西に約2.5km、長崎港から南西に約19kmの沖合に位置する「端島」。端島は南北に約480m、東西に約160m、周囲約1200m、面積約63,000㎡という小さな海底炭鉱の島で岸壁が島全体を囲い、高層鉄筋アパートが立ち並ぶその外観が軍艦「土佐」に似ていることから「軍艦島」と呼ばれるようになった。

炭坑閉山後、長い眠りにについていた「端島炭坑」だが、2015年「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼・造船・石炭産業」の構成資産の一つとして世界文化遺産に登録された。日本の近代化を支えた産業遺産「端島炭坑」は、石炭産業の歴史を今に伝えている。

〔視察経過〕

会議室にて、議会事務局松尾総務課長から長崎市における観光のあり方について説明を受ける。さらに、世界遺産推進室首藤係長から世界遺産管理について説明を受け、その後質疑応答が行われた。その後10時20分発のシーマン商会の船にて軍艦島に上陸視察した。

[質疑応答]

Q：世界遺産 端島炭鉱（軍艦島）の維持管理費はいくら。

A：整備に要する費用は、平成30年から30年間で108億2千万円と積算している。

Q：長崎市内の近代化遺産が世界遺産に認定されて観光客はどのくらい増えているか。

A：平成26年は631万人だったが世界遺産に登録された平成27年には669万人で10%増えた。軍艦島は平成26年が19万人だったが、平成27年には28万6千人で49%アップになっている。

Q：世界遺産により地元産業への影響は。メリットは。

A：軍艦島ツアー船の会社が5件あり、お互い競争して行っている。ガイドも船も会社で行っている。

Q：遺産見学料及びボランティアガイドはどのようになっているか。

A：乗船料が3000円～4500円、上陸料300円で、ボランティアガイドは土日祝日に小菅修船場跡、高島炭坑（北溪井坑跡）において行っている。

Q：貴課と釜石市世界遺産対策室との交流は。

A：年1～2回の会議にて交流がある。課内でも釜石に訪問している。

Q：長崎の夜景が新世界三大夜景の一つになっているがどのように夜景を演出しているのか。

A：稲佐山山頂展望台の広場のライティング演出をしたり、光のモニュメントの設置を行っている。また、主な観光施設4ヶ所のライトアップをし、夜景ナビゲーターを育成している。

[所感]

端島炭坑が世界遺産に認定されたからの地場産業、特に見学者を送迎する船会社が5社あって、お互いに競争力を発揮しており頼もしく感じた。問題は、平成30年度から30年間で108億2千万円と試算されている維持管理費であるが、これは国・県に対して強く要望をしていくべきと思う。また、ふるさ

と納税、寄付金、見学施設料、上陸料等を基金として積み立てて、10年後に6億円という目標を設定しているようだが、これも賢明な方法であり、見習わなければならない。

釜石の橋野鉄鉱山も、見学施設が訪れやすい施設かどうかを常に考え、市民の意見をよく聞きながら、維持管理費の一部となる見学料を設定すべきと思う。古くからの観光地である長崎とは、条件が違うが、釜石も地元の生産者、観光業者と行政が一緒になって考えていかねばならないが、見学者が訪れ、価値を見だし、満足度のある世界遺産・橋野鉄鉱山を今後、目指していかなければと思う次第である。

2、視察項目：やねだんの取り組みについて

日時：平成29年5月25日（木） 午前9時～11時

参加者：合田良雄 赤崎光男 海老原正人 古川愛明

相手方：柳谷自治公民館長 豊重哲郎氏

場所：柳谷自治公民館

〔研修内容〕

①視察先に選んだ理由

補助金に頼らず、自主財源で稼ぐ奇跡の村「やねだん」。人口300人の限界集落はどのようにして、ひとりの公民館長の手で生まれ変わったのか。その集落のリーダーの豊重氏に直接伺い、地域再生の先進地事例を確認し、提言を伺うため。

②やねだんの概要について

鹿児島県鹿屋市串良町の柳谷地区、通称「やねだん」は人口約300人の小さな集落である。約17年前、すでに高齢化率約40%で深刻な過疎化のなか、リーダー（公民館長）となった豊重哲朗氏（当時55才）は「子ども」「文化」「全員野球」「自主財源」を目標に掲げ、手始めに集落の活動拠点の形成を進めたのである。そこにかかる大半の資材と労力はすべて住民の持ち出しでまかなって完成させ、まず集落の人たちの団結心を育んだのである。いわゆる情報共有、役割分担から出番創出したのである。

次に、自主財源の確保のため、遊林農地を利用し、住民総出でサツマイモ栽

培を開始した。収穫したサツマイモは醸造会社に依頼して焼酎「やねだん」を開発販売し、その収益を元手に今度は肥・飼料の土着菌の開発・製造に着手。集落の主力産業である畜産農家に悪臭問題を解決させるとともに高温化させ、畜産農家の多い地域への販売に乗り出した。

年間約600万円の収益を上げるまでに軌道に乗せると、今度は独居老人への緊急警報装置、全戸への防犯ベル、子どもたちの学力向上を目指した寺子屋などの福祉・教育分野にも参格した。さらに空き家を修繕し「迎賓館」と名付け、アーティストを募集し、安価で貸し出し始めた。現在、全国からさまざまな分野の7人のアーティストが移住している。

「やねだん」の取り組みを知った韓国企業のオーナーとのコラボレーションもあり、その企業は韓国に「居酒屋やねだん」をオープンさせた。現在は韓国のテグ市とソウル市に5店舗が開店している。やねだん商品の売り上げは年間数千万円に及ぶという。

〔視察経過〕

豊重氏の熱のこもった説明（講演）をして頂き、テレビ放映されたビデオを見て、その後質疑応答が行われた。

〔所感〕

豊重氏はくり返し「リーダーは命令形で指示するのではなく、情熱で人を動かし、感動で感謝の心を養うことが大事だ。補助金頼りになるとアイデアが出てこない。」と強調され、リーダー論の神髄を述べられた。

やねだんの住民が自主参加し、互いに認め合い、それが地域の絆を強め、住民の幸福感を増しているという「自主性」と「感動」の循環による地域づくりは大変参考になるものである。

また、地域づくりには、住民一人一人を把握し、表舞台に引き立て、まとめあげていく経営感覚、発想力、思いやりのある地域のリーダーの存在が大切だと強く実感した。

今回の鹿屋市「やねだん」の視察は、今後の釜石の地域おこし、産業おこし、高齢者のいきがいと健康づくり、安心・安全な地域社会づくりなど、すべての問題解決に向けてのヒントになるものである。非常に意義深い「やねだん」の視察であった。

3、視察項目：鹿屋体育大学の成果について

日時：平成29年5月25日（木） 午後1時～2時30分

参加者：合田良雄 赤崎光男 海老原正人 古川愛明

相手方：国立大学法人 鹿屋体育大学総務課長 蔵田修一

国立大学法人 鹿屋体育大学総務係 薬丸洋史

場所：鹿屋体育大学 会議室

〔研修内容〕

①視察先に選んだ理由

産学官連携を行いながら社会貢献している大学から成果について学ぶため。

②鹿屋体育大学の成果について

「産学官連携プロジェクト」の取り組みに力を入れており、産は、食堂として事業を展開しようとしていたバルニバービ社。学は、鹿屋体育大学。官は鹿屋市で農業や畜産業、水産業などが盛んで、食糧自給率は100%を超えており、カンパチ、焼酎、さつまあげ、黒豚、サツマイモ、薩摩地鶏、落花生等まさに“食材の宝庫”である。この三者が連携して取り組んだのが「アスリート食堂」である。この食堂は、スポーツ栄養学に基づいてアスリート向けの食事を提供したり、健康になりたい市民にも体に良い食事を提供している。また、大学生と市民の交流の場にもなっており、夜10時30分まで営業している。

また、鹿屋体育大学の研究設備は大変充実しており、

- ・高性能の最先端スポーツパフォーマンス研究設備を整備し、
- ・高度スポーツ指導者を最先端研究設備で養成し、
- ・多様なスポーツパフォーマンス測定に対応している。

そして、公開講座などを広く一般市民に公開している。

また、「スポーツ合宿まちづくり推進事業」を行っており、トップアスリート等を鹿屋市に誘致し、鹿屋体育大学の資源を活用し、トレーニングメニューへの助言や栄養指導を行うことで競技力向上に資するものである。

〔視察経過〕

午後1時から大学会議室にて蔵田総務課長に鹿屋体育大学の成果についての説明を受け、大学構内の施設見学を行った。

〔所感〕

当初、「産学官連携プロジェクト」について、鹿屋市に視察を申し込んだのだが、事業としては終わっているとのことや日程上の都合で対応して頂けなかった。そこでお願いしたのが鹿屋体育大学であり、とても懇切ていねいな対応をして頂き、さすがにオリンピック選手を多数輩出した大学であった。また、大分前になるが、盛岡での冬季オリンピックの準備時代に、岩手県職員が釜石への体育大学誘致に向けての視察に訪れたこともある鹿屋体育大学である。

釜石にとって特に見習いたいのが「スポーツ合宿まちづくり推進事業」である。大学の素晴らしい施設、トレーニングメニューへの助言、栄養指導等、ハード面、ソフト面でのアドバイスもしているスポーツ合宿であった。釜石でのワールドカップラグビー2019後のソフト面についてももしっかり研究し、対応をしなければと強く実感させられた今回の視察、研修であった。



長崎市役所 会議室 (H29.5.24)



軍艦島 視察



長崎市役所 会議室 (H29.5.24)



軍艦島 説明



世界遺産・軍艦島全景



鹿屋体育大学 説明 (H29.5.25)



鹿屋体育大学施設見学 (プール)
(H29.5.25)



やねだん公民館前 (H29.5.25)



鹿屋体育大学施設内見学 (トレーニング)
(H29.5.25)